

令和2年度 教育委員会 第2回定例会 議案

1 日 時 令和2年4月20日（月） 午前10時

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 報告事項

(3) 議 案

<非>第1号議案 令和2年4月県議会臨時会に提出する議案 …非

<非>第2号議案 教職員の懲戒処分について …非

<非>第3号議案 教職員の懲戒処分について …非

<非>第4号議案 教職員の懲戒処分について …非

(4) 閉 会

第2回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
1	S N S を活用した相談体制構築事業報告	1

S N S を活用した相談体制構築事業報告

(教育政策課)

1 目 的

いじめ等をはじめとする子どもたちの悩みが深刻化する前に気軽に相談できる窓口として、若い世代が使い慣れている SNS を活用した相談体制を構築する。

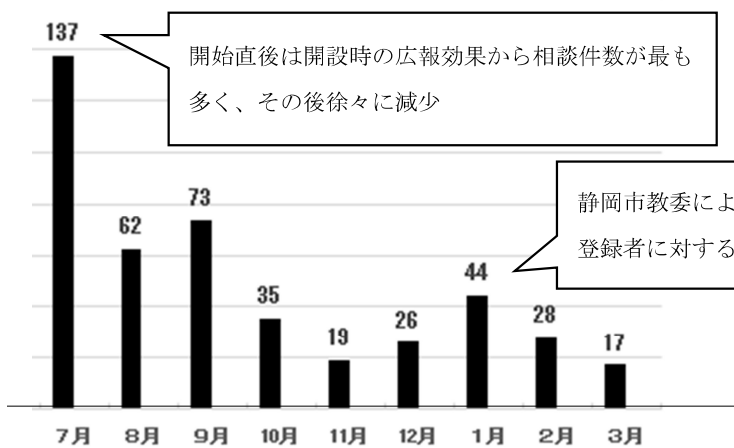
	教育委員会	(参考) 健康福祉部
相 談 期 間	年間80日 (7月～3月の土日祝日) ※年末年始を除く	年間30日 (10日×3期間) 5月20～24日、27～31日 8月19～23日、26～30日 3月18～20日、23～27日、30～31日
時 間	17時～21時	15時～21時
対 象	小・中・高校生	39歳以下の若者
委託先	ダイヤル・サービス株式会社	同左

2 事業実績 (令和元年度)

◆ 年間相談件数

件 数	教育委員会	(参考) 健康福祉部		
		5 月	8 月	3 月
	441 件	465 件	154 件	集計中

◆ 月別相談件数 (441 件の内訳)

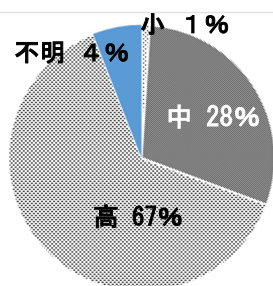


開始直後は開設時の広報効果から相談件数が最も多く、その後徐々に減少

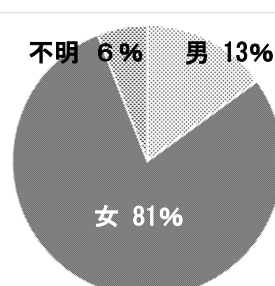
静岡市教委による広報の実施
登録者に対するメッセージ送信

相談窓口として定着させるために広報活動の重要性が高い (ただし、登録者に対するメッセージ送信は頻度が高すぎると逆効果)

◆ 校種別割合

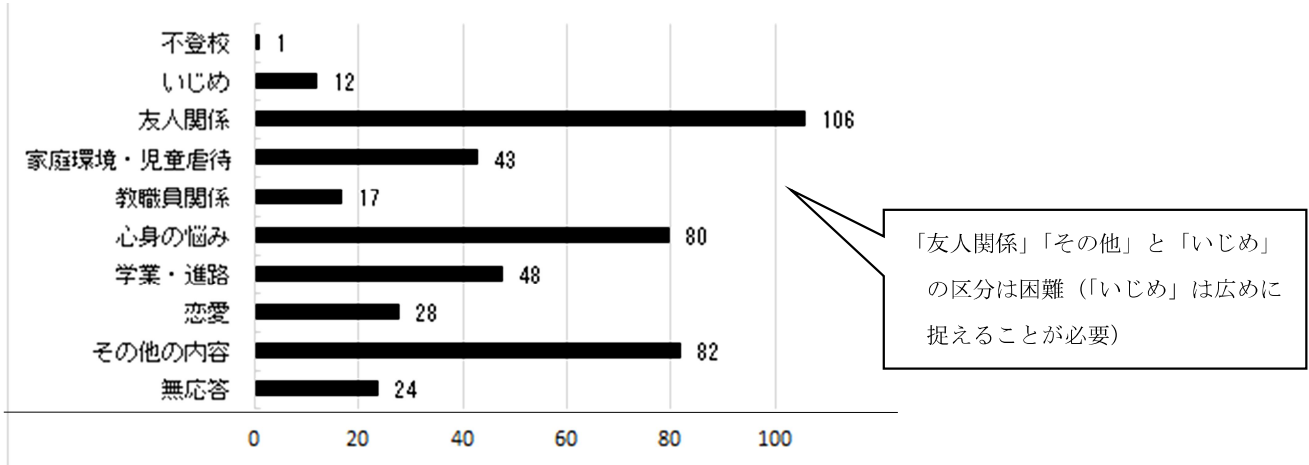


◆ 男女別割合



(参考) H30 年度全国自治体平均
男子 15%、女子 57% 不明 28%

◆ 相談内容別件数



3 対応の状況

- ・「ありがとうございます」「また悩みを聞いてもらって良いですか」等のメッセージで相談を終了しているものが多く見られることから、この相談を通じて気持ちが救われた者が一定数いる相談ツールとしての効果は感じられた。
- ・相談員が、「あなたの悩みはこういうことなのかな？」といった促しを通じて問題の整理を相談者と一緒に行うことで、相談者が教員や友人、保護者等に相談する後押しすることができた。
- ・一見、「ひやかし」「いたずら」のような相談からスタートしたものでも、メッセージのやりとりを行う中で心を開き、悩みを打ちあけるケースもあった。
- ・緊急対応が必要と判断されたケースが1件あった（以下参照）。

事案	中3女子から、10月の台風接近時に「台風で飛ばされたい」「死にたい」「外にでる」といったメッセージがあった。それ以前にも3回「リスカをしている」等のメッセージはあった。
対応	本人の特定につながるような話題を引き出すメッセージ交換を継続した。安全確保のため、名前と住所を教えて欲しいと伝えたところ、「死なないから大丈夫」との返信があった（その後相談者は東京在住と判明）。

4 令和2年度の体制

教育委員会と健康福祉部の両事業を統合する。事業主体は健康福祉部となるが、引き続き学校に対する広報や高校生以下の児童生徒等に関する緊急事態発生時の対応等、緊密に連携しながら事業を推進する。

（期待される効果）

- ① 土日祝日の通年相談と長期休業明け前等の相談を区別なく運用することが可能
- ② 広報活動の効率化（一本化による予算節約→広報の質・量の改善）
- ③ 相談者のニーズを見極め、柔軟な相談期間の設定が可能

区分	内容
事業名	若者こころのSOSサポート事業（健康福祉部）
予算額	18,000千円（R元予算額 教委 10,000千円、健福 10,000千円）
相談期間	土日祝日（4～3月）＋長期休み明け等（5月、8月、3月）

5 教育現場における知見の活用

- ・ 教員研修や各研究会（人権教育研修会、生徒指導連絡協議会 等）で「SNS相談マニュアル（相談対応者用）」や相談の内容（ログ）について、匿名性に配慮しつつ可能な限り共有する。
- ・ 文字情報から得られる児童生徒の実態について共通理解を得ることで、今後のいじめ対策や生徒指導等の充実を図る。